

兵庫県将来構想研究会 第5回会議 (2020. 3. 26) 要旨

【議題】 社会潮流 俯瞰② (県民意識調査から見る新ビジョンの方向性)

(新ビジョンで重視する「豊かさ」のイメージを明確に)

- ・ 「豊かな兵庫」という時の「豊かさ」とは何かを考えることが重要。多文化共生だけでなく、ライフスタイルや働き方の多様性を掘り下げることで「豊かさ」につながるのではないかと。
- ・ 今後都市と地方を行き来する生活が広がり、ダブル住民票という考え方も出てくるだろう。都会型と地方型、どちらが標準ということではなく、それぞれの形があることを示す必要がある。

(豊かさを生む「資本」の充実が一つの方向性)

- ・ 豊かさを生む「資本」について考えることが大事で、その中では「心理的資本」に着目すべき。心に余裕があり、自分に自信が持てている、未来に希望があるといった状態を指すが、これが他のいろいろな資本を更新する資本として注目を集めている。強いコミュニティが心理的資本を育てるという調査結果も出ている。これらの資本をどう増やすかも大事な論点の一つだ。
- ・ 状況の変化に柔軟に対応できることが重要。そのためには広い意味での資本の蓄積が必要で、それは教育であり、IT であり、心理的資本である。直接不安を解消するというよりは、不安に打ち勝つ生命力を持てるようにすることと、それが育まれる基盤を整備することが大切だ。

(自己決定の重要性)

- ・ 所得や学歴より「自分で選択できること」の方が生活の満足度や幸福度とのつながりが強い。
- ・ 選択は、おそらく自分の生活をどうコントロールできるかという「自由度」と関わっている。

(「地域」よりも「個人」に焦点を当てる)

- ・ グローバル化で中間層が解体する中、地域は、元気のいいローカルエリート層と、それ以外のサイレントマジョリティに二分されている。不安感を抱えているのは後者で、その中でも特にどの層が一番傷んでいるかを特定して手当てしていくのが行政の重要な役割だ。ばくっと「地域」を対象にした施策よりは、例えば「郊外に住む働きづらさを抱えている若い人」といった「個人」にアウトリーチする施策の方が現代的だし、求められていることだと思う。
- ・ 今後はビジョンも「個人」に着目すべき。特にこれまで行政支援の狭間にあって、注目されにくかった人々のことをよく考える必要がある。だからといってその人たちへ支援を広げるのではなく、必要なのは、その人たちの生活の底上げすることだ。
- ・ 個人の潜在能力に焦点を絞りつつ、個と地域のバランスが取れたパッケージにする必要がある。

(どうすれば将来の安心感を高めることができるのか)

- ・ 今後の生活を考えたときに誰しも「将来が保証されていない」という不安感を持っていると思う。何か悪い出来事があったら、自分の仕事や生活が切れた時でも救ってもらえると思うことができれば、県民の不安感は幾分か払拭されるだろう。
- ・ SDGs は「一人も取り残さない」ことを目標に掲げている。県も、今まで見落とされがちだった人々を「実はしっかりと見ていますよ」という姿勢を打ち出すことが、最終的には県民全体の幸せ、換言すれば「QOL」を高めることにつながるのではないかと。
- ・ 大きな「物語」が崩れた後の「不安」の時代にある中、県民の不安解消は難しいゴールだ。
- ・ 雇用さえ確保されていれば、一定程度安心は確保される。最も重要な基盤は雇用だ。

(新しい方向性ばかりに目を奪われない)

- ・ 新しい方向性を提示するのは別に、「転職しやすい社会」のように、以前から言われているのに実現していない方向性をどう精緻に実装化していくかも新ビジョンの課題と認識すべきだ。

(決定的なインパクトを持つ IT)

- ・ 限界費用ゼロ社会の議論で言われているように、IT が市場に取って代わる時代がやってくる。IT が社会をものすごいスピードで変え始めていることは、もうはっきりしている。
- ・ 製造業も 3D プリンタを使えば、神戸のソフトウェアで設計して但馬の機械で出力するという世界になるだろう。もうそれが可能になり始めている。
- ・ IT インフラの差が地域の差につながる時代になる。家庭でネットを利用した学習などがこれから始まっていく。テレワークができるサテライトオフィスがあるといったことも含めて、地域として IT インフラの整備を真剣に考えないといけない段階に来ている。
- ・ IT インフラが徹底して作られたら、産業構造が変わり、地域構造も変わる。産業構造で一番変わるのは教育だろう。もはや大学のキャンパスが不要という動きも世界では出始めている。
- ・ ネットで情報を集めている人と、テレビしか見ていない人で、今回の事態の感じ方がかなり違うことがわかってきた。普段県民が何で情報を得ているかを知ることが重要だ。

(SDGs との結びつきを考えることが重要)

- ・ SDGs は国際的な課題を見据えたものだが、兵庫県の新しい社会像を考えるときに、国際的な潮流や課題を切り離すことはできないので、SDGs との接点を考えた方がよい。
- ・ SDGs の目的は、社会を変革することであり、そのめざす姿が「誰一人取り残さない」社会。気候変動や環境問題とも深く関わる。SDGs と新ビジョンがどう組み合わせるのかが気になる。
- ・ SDGs は物事を多面的に考える切り口として有効。プラスチックごみなら、分別回収で解決できる問題ではない、生産体制や消費と結び付けて考えないといけないという話につなげられる。

(作ったビジョンをどう実現するかを考えておくこと)

- ・ ビジョンが成功するかどうかは、おそらく主体者である県民の中でどこまで本気になる人が増え、取組につなげていくかということに尽きると思う。
- ・ どういう構造でビジョンを組み立てるかは、ビジョンの目的は何かと関わっている。ビジョンは、掲げるテーマも大事だが、一人ひとりの住民が見て、使えるものになることが重要だ。健康診断のように、県民が地域についていろいろな見方ができるビジョンになれば面白い。
- ・ 兵庫県の現状を考えると、県民が嫌がるようなこともあえてしなければならない状況がある。そのような課題を取り上げることもビジョンの大事な役割ではないか。

(地域ビジョンの意義)

- ・ 前回同様の県民局単位の地域ビジョンに意味があるのか。テーマを限定するとか、市町ではできない部分に絞るとか、県でないといけないことにフォーカスする必要があるのではないか。
- ・ 子育て世代が持つ課題のようにエリアを越えた共通の課題にどうアプローチするかも重要。
- ・ 県民局の単位よりももう少し広い単位で議論したほうがよいこともあるのではないか。
- ・ ビジョンは手段なのか目的なのか。ビジョン作りを通じて、アクションを生み出すことが大事ではないか。様々な動きとコラボしていくビジョンになれば多様性が出て面白いと思う。

(以上)